

## 1 図画工作科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

～芸術ワーキンググループにおける取りまとめ（案）から

### (1) 現行学習指導要領の成果と課題

- ＜成果＞ ・創造することの楽しさを感じさせ、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること。
- ＜課題＞ ・感性や想像力等を豊かに働かせ、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成すること。
  - ・主体的で創造的な学習活動の充実。
  - ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること。

### (2) 育成すべき資質・能力を踏まえた教科指導目標と評価の在り方について

#### 1) 教科等の特質に応じ育まれる見方・考え方（教科ならではの視点と思考の枠組）

#### 見方・ 考え方

を働かせながら知識・技能を習得する。  
が成長すると思考力・判断力・表現力等が深まり豊かになる。  
を通じて社会や世界とどのように関わるか学びに向かう。

人間性  
の  
育成

#### 図画工作科の「見方・考え方」

感性や想像力などを働かせて、形や色などの造形的な視点で対象を捉え、自分のイメージを持ちながら、造形と生活などとの関わりについて創造的に考えること。

※ 現行学習指導要領の、表現及び鑑賞に共通して働く資質・能力である〔共通事項〕と関わる。

#### 図画工作科の「見方・考え方」の特徴

- 知性と感性の両方を働かせて対象を捉える  
知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていく。
- 特に重要な「感性」の働き  
感じるという受動的な面だけではなく、感じ取って自分を更新していくこと、新しい意味や価値を創造していくことなども含めて「感性」の働きである。  
→ 「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなす。

#### 2) 小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

幼児教育の基礎を意識し、小、中、高それぞれの学校段階において、どのように資質・能力を身に付けさせるのかを明確にしていくことが必要である。また、小学校図画工作科の工作に表す活動において育成する資質・能力は、中学校技術・家庭科（技術分野）において育成する材料、加工に関する技術の基礎的・基本的な知識・技能ともつながる。

資質・能力については、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った整理を検討している。資質・能力の三つの柱は相互に関連し合い、一体となって働いてこそ意味があるため、必ずしも別々に分けて育成したり、順序性で育成したりするものではない。

- 資質・能力を育む学習過程の在り方 図画工作科における学習のプロセス（別紙1・2参照）
- 図画工作科において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）（別紙3参照）

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせて、感性を育み、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。

**小学校 図画工作**

- ① 形や色などの特徴について、創造活動を通じた造形的な視点として理解することや、創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 豊かに発想や構想することや、作品などからよさや美しさなどを感じ取ることなど、創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現及び鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わい、生活の中の様々な造形に関わるようにする。



※ さらに検討中

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等 (情意、態度等に関わるもの)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">知識</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">創造的な技能</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">発想や構想の能力</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">鑑賞の能力</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">主体的に学習に取り 組む態度 など</div>

- ※ 「知識・技能」における「知識」では、各学校段階における「見方・考え方」との関連も踏まえ、形や色などの特徴、美術作品や文化遺産についてなどを位置付け整理。「技能」については、発想や構想したことなどを基に、自分の思いを具体的に表現する創造的な技能であることとして整理。
- ※ 「思考力・判断力・表現力等」には、表現の学習において育成する「発想や構想の能力」及び鑑賞の学習において育成する「鑑賞の能力」を位置付け、表現と鑑賞の学習において育成する創造的な思考力・判断力・表現力等であることとして整理。
- ※ 「学びに向かう力・人間性等」には、各学校段階の連続性に配慮し、感性、つくりだす喜びや創造活動の喜び、主体的に学習に取り組む態度、美術文化の継承と発展への態度、情操などを位置付け、心豊かに生きることと造形や美術などとの関わりとして整理。

3) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

○ 図画工作科の評価の観点のイメージ (別紙4参照)

資質・能力の三つの柱を踏まえ整理した今回の観点別評価の観点

- 新たに「知識」に関する観点と「技能」に関する観点を一つの観点として示す。
- 表現領域における「思考力・判断力・表現力等」に関する観点と鑑賞領域における「思考力・判断力・表現力等」に関する観点を一つの観点として示す。

さらに検討 → 具体的な学習評価の方法や、学びや指導の改善につなげる方策等。

育成する資質・能力を踏まえた「評価の観点」の表記。

(3) 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実 (現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し)

伝統文化に関する学習 生活や社会の中での働き  
生活環境の変化を踏まえた学習の在り方 言語活動の充実 など

(4) 学習・指導の改善・充実や教材の充実

アクティブ・ラーニングの視点 (主体的で対話的な深い学び) からの学習・指導の改善充実

→ 画一的な指導にならないように留意し、指導方法の不断の見直しや改善を図る。

図画工作科が重視してきた心と体を使って触れたり感じたりする体験や、人との関わりを通して価値を実感する活動などとの学びの関係性、そして活動を通して何が身に付いたのかという観点から、学習・指導の改善・充実を進めることが求められる。また、それらの実現のためにも、子供にどのような力が身に付いたのかを見取っていく学習評価が重要となる。

- 例) ・造形遊びの活動など、材料と関わる中から生まれた気づきやイメージを基に交流する。
- ・前年までの材料や用具の経験を生かし、選び取ったり扱いに慣れたりしながら表し方を深める。
- ・見付けたよさや面白さを、表現や鑑賞に生かせるようにする。
- ・自分の作品のイメージや美術作品から気付いたことについて、意味や根拠を持ち話す。
- ・グループで一つの作品に対して意見を述べ合ったり、作品を見合って活動を振り返る。
- ・各題材で表現と鑑賞の目標を明確にし、表現の能力や鑑賞の能力を相互に関連させる。

